

12 平成20年岩手・宮城内陸地震を後世に伝える磐井川地区 民有林直轄治山事業

岩手県（一関市）

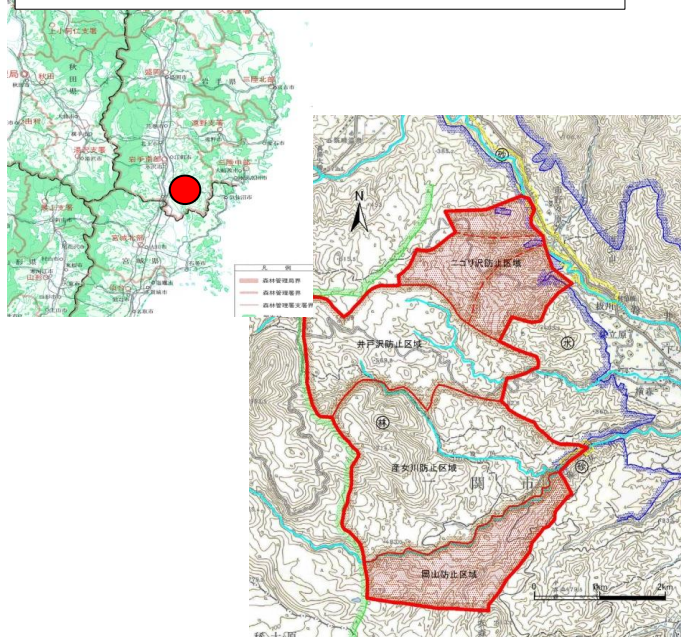
いわいがわ



カスリーン台風（昭和22年9月）による災害状況



磐井川（岡山地区）の全景と集水井工の配置状況



○所在場所

げんびちよう

岩手県一関市巖美町字板川・瑞山地内

○施設・工法の概要

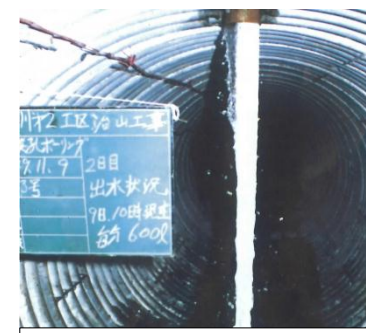
地すべりの活動を抑制するための排土工・集水井工（132箇所）・アンカー工（134本）等

○解説

一関市地方はカスリーン台風（S22.9）、アイオン台風（S23.9）によって壊滅的な被害を受け、昭和24年から岩手県が治山事業を実施してきましたが、岩手県知事の実務に基づき、昭和44年から林野庁直轄地すべり防止事業として、地下水を排除するためのトンネル暗渠工や集水井工等の抑制工や杭打工等の抑止工等、地すべり防止工事が実施され、安定化が図られました。

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」では、最大深度6強を記録し、周辺地域で大規模な地すべり災害が発生しましたが、既施工区域内では大きな被害もなく、地すべり防止事業の効果が発揮されました。

また、トンネル暗渠工からの排水は一関市の上水道としても活用されています。



トンネル暗渠工の排水状況